



北海道医歌人会詠草

憂国

釧路 児玉 昌彦

島一つの領有めぐりつばせり合い国の友好むつかしさを知る
事あれば繰り返される歴史論夫婦の不毛ないさかいかいにも似て
幾つもの海洋プレートがぶつかったその断崖に立つ日本列島
何百万何千万人を屠りたるあの戦争とは何だったのか
敗戦の焼けつく夏日の虚しさを六十余年後の今も忘れず

世情

旭川 稲積 文子

戦中の節約が今も身にしみてミシンで繕う作業もたのし
ささやかな民意の訴えにも耳を貸さず党運営のための本の宣伝
本質を忘れた党の宣伝に失望の溝更に深まる
役人は報酬外の収入が多いとピラミッドの前でガイドがつぶやく
歯の治療を娘に委ねる束の間は吾れの尊き倅せなりき

国境問題

江別 三宅 浩次

国境は眼には見えないそれぞれの国が勝手に線引きをする
若者が不満吐き出す行き先は諸刃の剣手並み拝見
小異棄て大同に就く周恩来述べた言葉の重みを知ろう
紛争を煽る輩に騙されず国の行方を遠く見据えて
「平和」という駅通り過ぎ車内には舟を漕ぐ人これぞ平和か

田沢湖

札幌 山口 康徳

田沢湖ゆ西湖に越せしクニマスは居心地よきや泳ぎ産卵
永年の眠りゆさめしヤナギラン重き火山灰押し美き花魁せつ
そのかみに条文不備のためなるや異国に足踏入る某国のあり
蒼空に白線画く飛行雲下界の騒乱なだむる如く
衆望を担ひ射止めし新トップ秋の治水に勇氣凛々

S夫人痛む

札幌 古屋 統

華道展春秋招き給いたるきみが消息なくて半歳
残暑見舞出せば三日後電話来ぬ脳梗塞に入院中と
利き手にはあらぬ片麻痺失語なしされどの不如意わりて来る
病院の名前度忘れしましたと健忘詫びる受話器越しの声
十分後病院名言う再電話見舞無用と釘を刺し来る

卒業六十周年記念会

美唄 吉村 誠治

集ひ来し二十八期の二十七名今宵限りのこの宴かな
終戦の年に入寮せし三十七名よくぞ九名集ひ来しかな
栃木より妻子三人に護られて車椅子にて友は来たれり
寮生歌ふ「別離の歌」に聞き入れば寮での青春甦り来る
「都ぞ弥生」生まれて百年のこの年に卒業六十年祝ふ縁ぞ

クスダマツメクサ

札幌 浜島 泉

雑草と抜かれしクスダマツメクサは花の異形と場所柄故か
ウサギギク摩周湖に来て再会す大雪登山十五年経て
道東へ妻を伴ひ同期会 鶴を尋ぬる旅とはなりぬ
遠目には山肌の傷復旧す かの地に生ひし群落いかに
ポケットをまさぐる触れず携帯はストラップにて頸部に吊りし